

とっぴと通信

2025年2月16日発行

263号

「とっぴと通信」は
田舎に生きている
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。春が待ち遠しい時期になりました。さて今回は先月号の続きです。ホント子供でよく分からんことをしますよね。では今月もはりきっていきましょう！

あん頃のぼくらはアホやった2

私は中学生になるとすぐに水泳部へ入部する。そして2年間、先輩方の優しい指導に耐え、はれて天下の3年生になった。学ランのエリにつける皿のバッタがなんと神々しいことが。ああ、これで二厘刈りから開放される。青々とした頭とおさらば。やっ

とモチキが来るぞ」と髪を伸ばしたが、その気配まったくなし。ぼくらは図に乗って水着を超ド派手に買い換えた。ビョウ柄、水玉、蛍光色のオンパレード。一般的に中学生の競泳水着といえば、無地である。こんな水泳部はどこにもない。時々OBが突然練習を見に来たが、その度、あわててはき替えていた。私にはこんな特技があった。潜水で53メートル泳ぐという超人的な記録を持っていた。25メートルプールなので、水中で2



回ターンすることになる。その間ずっと水の中。おそらく50メートルプールなら、まだいけたと思う。水泳部では、もちろん一番だった。だからといって、大会で潜水という種目はないので、何の意味も無いことだが……。またこんなことも流行った。プールの底にある排水口にバスタオルを近づけると、吸い込む水圧でバスタオルがベタッと排水口に張り付く。そこへ何度か潜るとは空気を送り込み、バスタオルの下に空気の層を作る。そしてその空気を吸うことで、10分以上水中にいらることが出来た。今思えば、いったい何が面白かったのだろう。こう書くと遊んでばかりのようだが、実は私、平泳ぎがとて速かった。中体連の福岡西区大会では、100メートル、200メートルとも一位。続いて福岡市大会では、100メートルが二位、200メートルが三位だった。そして福岡県大会へと進んだ。会場は田川市の県営プールだった。部員や家族の応援団が大型バスに乗り、車内は小旅行



のようだった。もちろん私の両親もわざわざ仕事を休んで来てくれた。出発前には、校長先生から水泳部へ激励の言葉もいただいた。後輩からは、「先輩、九州大会まで連れてってください」と。おう、まかしとけ。コンディショニングが良かった私は、県大会を突破し、九州大会へ行ける自信があった。その時まで……。さて予選が午前中に行なわれた。私は自己新を出し、100メートル、200メートルとも順調に決勝へ進んだ。決勝は午後から始まる。昼食を済ませ、時計を見ると出番まで2時間もある。暇やなあ。あと2時間もあるぞ。あ、そう言えば……。思い出さなくていいものを、こんな時にかぎって思い出す。会場の近くにゲームセンターがあったのを、バスの中からチェックしていた。「ちょっとだけインベーダーをしに行こうや」と後輩を誘い、ごっそりと会場を抜け出した。ご存知だろうか。インベーダーとは、当時若者に爆発的に人気があった(株)タイトーのアーケードゲーム「スペースインベーダー」のこと。社会現象になるほど流行っていた。ぼくらも時間があれば常にゲームセンターへ行っていた。これが学校でも問題になり、先生が見回りにくるようになると、自転車で中洲のゲームセンターまで行ってたのを覚えてい